

宮城山岳通信 第28号

目次

巻頭言	支部長 2頁
定例役員会報告	事務局 2~7頁
山岳古道調査特別委員会報告 (第3回・第4回)	事務局 7~8頁
宮城支部 山行報告	
☆第11回親子登山教室〈深山〉(公益事業)	千石信夫 8~10頁
☆第10回登山教室〈北泉ヶ岳・泉ヶ岳〉(公益事業)	富塚和衛 10~11頁
☆厳冬期山行〈鷹ノ巣山〉(共益事業)	佐藤昭次郎 11~13頁
支部総会開催の案内・今後の行事予定	事務局 13頁
「宮城山岳」第27号の原稿募集・編集後記	会報・編集出版委員長 . . . 13頁

巻 頭 言

支部長 千石 信夫

新年を迎え兎年はどのような年となるのか気になるところです。コロナ感染も下降線を辿っており規制緩和の方向にあることは、行動範囲も広くなり大変嬉しいことでもあります。

さて、支部運営につきまして、今年も総会開催の時期が近づいてまいりました。ここ数年コロナ感染の影響で、郵送での総会を行わざるをえませんでした。本年は何としても会員の皆様と顔を合わせての総会を開催したいと考えております。会員同士の交流は、実際にお会いして初めて交流ができるからです。現在、次年度計画など検討中ではありますが、4月末には開催を予定しております。できましたら、いままで参加されなかった皆様も、できるだけ参加いただけるよう早めにご連絡いたしますので、万難を排して参加いただけますようお願い申し上げます。

昨年は、3年ぶりの年次晩餐会が開催され、久しぶりに私も参加してまいりました。晩餐会の資料に、新永年会員名簿が年度ごとに掲載されていました。宮城支部からは、2年間開催されなかったことで、柴崎徹会員（令和2年度）、千田早苗会員（令和3年度）の名前がありました。半世紀といった永きにわたり、支部の牽引役として会の活動に尽力され、様々な場面でリーダーシップを発揮されたことに敬意を表するとともにお祝いを申し上げます。これからもご指導を賜りたいと願っております。

さて、当会120周年記念事業である「日本の山岳古道120選」は、昨年から本格的に調査活動が進められており、今後は残りの調査活動と並行して行動記録、写真整理、史跡等の確認など編集作業がメインとなり、古道調

査特別委員会は今年がヤマ場を迎えており忙しくなりそうです。

その他には、次年度計画となりますが同120周年記念事業の「山の天気ライブ」を、宮城支部の公益事業として6月中旬に開催することにいたしました（山形支部との交流を兼ねて開催予定）。

これは会員の皆様に、安全登山のための知識や技術を習得していただくことを目的に開催する山の天気講座で、ヤマテンの気象予報士が講師を務めます。同時に、日本山岳会の活動を広く知っていただくため、一般の登山者が参加できる山頂での講座をはじめ、これらの活動を発信する広報活動や支部の活性化を図っていく、といった目的で開催いたします。座学と現地講座があります。この機会に是非ご参加いただきますよう事前予告させていただきます。

今年こそ多くの会員同士の交流ができればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【役員会議事録】

■令和4年10月定例役員会

日 時：10月26日（水）18：00～

場 所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、千葉、冨塚、柴崎、高橋、草野、横山、鳥山、計8名

千石支部長より「コロナ感染が減少傾向から、また増えつつあります。引き締めて山行や行事に臨んでいきましょう」と挨拶。早速、議事に入った。

《報告事項》

イ）総務・財務委員会からの報告（冨塚）

①支部連絡会議の開催について：

本部晩餐会の12月3日（土）午前中、京王プラザホテルで開催。これまでズーム会議で

の開催であったが、久しぶりに対面での支部連絡会議となる。

②本部晩餐会の開催について

12月3日(土)午後、京王プラザホテルで開催される。

③廃道・登山道変化による国土地理院への情報提供のお願いについて

国土地理院より、廃道となった登山道や何らかの原因で付け替えられた登山道を目にした場合、支部を通じてか支部員直接、本部の「国土地理院WG」まで提供して欲しいとのこと。これらの情報を国土地理院はスマホ等のGPSアプリ(ヤママップやヤマコレ)などの地形図に反映させたいとのこと。

ロ) 山行集会委員会からの報告

①秋山山行(10月)の実施結果について(千石):「宮城山岳通信」第27号参照

②第11回親子登山教室(10月)の実施結果について(千石):この後の「山行報告」参照

③第10回登山教室の実施計画について(富塚):仙台市民の山である泉ヶ岳で開催するので、多くの会員に参加してほしい。

ハ) 会報・編集出版委員会からの報告(鳥山)

①「宮城山岳通信」第27号について:

山岳古道の現地調査並びに山行報告や各行事報告を記載し、11月上旬発行予定。

二) 他委員会からの報告

○メディア委員会(富塚委員長):宮城支部のHPに不具合があり、加藤委員が本部と連絡を取り合い解消された。また支部HPに山行案内は随時掲載されているが、実施後の山行記録が載っていない。HPの充実を図るために、写真を添付した山行報告を掲載する方向で検討。

○高橋二義委員より、二口古道の展望台から上の林道まで、何日間通って刈り払いし歩きやすくした。

ホ) 山岳古道調査特別委員会からの報告

①全国山岳古道調査進捗状況について:

9月21日の報告時と変わらないが、出羽仙台街道の踏査は来年に延期する。理由は大深沢にある崩壊した橋の復旧が遅れ、間もなく冬季に入るため。

また、出羽仙台街道に関し11月1日、鬼首公民館の館長にヒアリングする。

②第3回山岳古道調査特別委員会開催について:本部古道PJからの最新資料の説明並びに各古道の進捗状況、及び今後のスケジュール等を話し合うため11月3日(木・祝日)、仙台シルバーセンター会議室で開く。

③原稿作成の手引きと手拭いについて:

原稿を書くうえで参考にしてもらおう「原稿作成の手引き」を本部で作った。また本部の総務委員会で日本手拭いを作り販売(販売価格1,000円、支部への卸値500円、差額は支部の古道調査で利用して下さいとのこと)。

《審議事項》

①風力発電計画に対する会の見解について(第2回):自然保護委員会で作成した要請文をタタキ台に、千石支部長が作成した文書を配布、検討。この風力発電問題で宮城岳連の担当者とも意見交換してみる。今後、情報を集めて次回の役員会で検討する。

《その他》

○県の自然保護課より連絡あり、自然保護指導員5名の推薦依頼があり、現担当の高橋、千石、千葉、富塚、太田の5名を引き続き推薦する。

○支部晩餐会のこれまでの会場が閉店となり、新たな会場を探す。

■令和4年11月17日(木)の定例役員会は、審議事項及び取り急ぐ報告事項なく、コロナ感染が急拡大したことから中止とした。

■令和4年12月定例役員会

日時：12月15日（木）18：00～

場所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、千葉、冨塚、高橋、佐藤、草野、横山、鳥山、計8名

千石支部長から「コロナ感染が増加傾向で、顔を合わせて行なう各山行や行事に影響が出ています」と挨拶、議事に入った。

《報告事項》

イ) 総務・財務委員会からの報告（冨塚）

①支部連絡会議参加報告について

12月3日（土）年次晩餐会に先立ち、久しぶりに顔を合わせて開かれた。各支部の活動では、広島支部がユース活動を活発に展開、宮崎支部は宮崎ウエストン祭を開催、北海道支部では支部同士の交流会を催していることなどが報告された。そのあと松田理事から支部保有の宿泊施設が紹介され、また山岳古道プロジェクト委員より記念タオルの販売について説明があった。

②新入会員・退会会員について

11月付で準会員として八尾寛さん、支部友会員として白井浩さんより入会申し込みがあった。また12月付で太田正会員より退会届が提出された。

③2023年度「特別事業補助金」募集の案内

会員増強を目的に支部活性化を図る事業、また安全登山を指導・実施するため支部が実施する事業などを支援するための補助金。

④第36回東北・北海道地区集会の案内

創立30周年を迎える青森支部が幹事となり、来年7月1日（土）、2日（日）の両日、八戸プラザホテルで開催される。

⑤自然保護委員会からのお願い

本部の要請に応え柴崎、高橋、宇都宮の3氏を宮城支部の自然保護委員として推薦する。

⑥本部理事会議事録（10月度・11月度）

詳しくは会報「山」の11、12月号を参照。

⑦「宮崎ウエストン祭」の紹介について

ロ) 山行集会委員会からの報告

①第10回登山教室の実施結果について（冨塚）

支部会員7名、一般参加者9名の参加。一般参加者3名に会員2名を付け、3班編成で実施したところ、一般参加者より身近に教えてもらい良かったという好評を得た。この一般参加者のうち1名が支部友会員として入会することになった（この後「山行報告」参照）。

②初冬山行について（千石）

11月20日に加藤と千石両氏で偵察した結果、予定ルートがキツかったので別ルートで11月27日（日）に実施しようとしたが、参加者がゼロで、結果中止とした。

ハ) 会報・編集出版委員会からの報告（鳥山）

「宮城山岳通信」第28号は、来年3月上旬をめざし作業を進めている。これで平成4年度は、26号、27号と併せ3号目となる。

ニ) メディア委員会からの報告（冨塚）

月例山行の報告は「宮城山岳通信」に掲載しているが、実施日と通信発行日にタイムラグが生じてしまう。そこで宮城支部のHPを活用し山行報告を載せていきたい。短期間で報告が閲覧でき、尚且つ幅広い方々にもアピールできる（千石支部長より、一般参加者を募集しての山行の場合、HPに記録写真等を掲載してもいいか確認をとること。前に親子登山教室で、子供の写真は載せないで欲しいという要望があった）。

ホ) 山岳古道調査特別委員会報告（冨塚）

11月3日に開催した第3回委員会の報告（この後の報告を参照）。尚、第4回目の委員会を来年2月2日（木）に開催する。

《審議事項》

○準会員として八尾寛氏より、支部友会員として白井浩氏より、それぞれ入会の申し込み

があった。そこで宮城支部規約により役員会の承認が必要で、当役員会に諮り満場一致で入会が承認された。

○風力発電に関する見解について千石支部長が宮城岳連の会長と話し合った。岳連側も賛成の意を表し、一緒に進めることで合意。

《その他》

○支部晩餐会の中止について（千石）

コロナ感染が拡大し参加者が少なく、晩餐会&オークションの意義が薄れると中止した。

○三宅泰会員が「オボコンベ」を自費出版

○千葉氏より、海外山行に行きたい人が数人おり、来年の7月あたりに10日間ぐらいの海外山行を計画したい旨、報告があった。

○12月の年次晩餐会で柴崎徹(会員番号7018)氏と千田早苗(会員番号7211)さんが永年会員になった。

■令和5年1月定例役員会

日 時：1月18日（水）18：00～

場 所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、千葉、富塚、柴崎、高橋、草野、横山、佐藤、鳥山、計9名

千石支部長より「この1年コロナ感染に影響されないよう、通常山行はじめ各行事を実施していきましょう」と新年開始の挨拶のあと議事に入った。

《報告事項》

イ) 総務・財務委員会からの報告（富塚）

①支部・委員会合同説明会について

1月13日オンラインで開かれ、令和5年度の事業計画、予算書類の記入方法並びに取扱いについて説明があった。

②令和5年度支部事業計画・支部予算提出について

支部予算書は1月22日（日）、支部事業計画書は1月31日（火）が提出期限。

③本部理事会議事録（12月度）について：詳しくは会報「山」1月号を参照。

④支部・委員会合同説明会の動画配信案内

当日の様子がパスワードを入力するとURLから閲覧できる。

ロ) 山行集会委員会からの報告（佐藤）

○厳冬期山行計画について

2月5日（日）、太白区にある鷹ノ巣山で実施する。担当は佐藤昭次郎会員

ハ) 他委員会からの報告

○会報・編集出版委員会から（鳥山）

・「宮城山岳通信」第28号の原稿について

・「宮城山岳」第27号に掲載する新入会員紹介の原稿について

二) 山岳古道調査特別委員会からの報告（富塚）

①第4回委員会の開催予定について

2月2日（木）に開催、各古道担当チーフから進捗状況及び今後の活動予定を報告してもらう。そのあと総仕上げとなる2023年の作業スケジュールなどを話し合う。

②古道手拭いの予約申し込みについて

希望会員及び古道調査でお世話になった方々への御礼も加味し22本購入する。

《審議事項》

①令和5年度本部提出支部事業計画（案）について（富塚）

内閣府からの指導で提出様式が変更された。

②令和5年度本部提出支部予算（案）について（富塚）

この①と②の本部提出(案)作成について、今月中に提出期限が迫っていることから千石支部長と富塚事務局長に一任することで了承。

③関山フォーラム協議会からの打診について

日本山岳会宮城支部に協議会加入への打診があり、話し合った結果、団体としては相応しくないと加入を断ることにした。

④ J A C 支部事業委員会より宮城、秋田、岩手、山形、福島の5支部に、今年6月中旬に猪熊講師による「山の天気ライブ授業」を実施しないか打診があった。→各支部と話し合うが、宮城支部として実施することを了承。

《その他》

○日本山岳会全国支部懇談会は2023年9月23日(土)・24日(日)群馬支部担当で水上温泉・谷川岳周辺で開催される(富塚)。

○風力発電に関し宮城岳連に打診したが、その後、連絡が来ない。現在、関連自治体は何れも設置反対を表明している。千石支部長より宮城支部HPに、山岳地帯での風力発電設置反対の支部見解を載せたらどうか提案され、了承される(千石)。

■令和5年2月定例役員会

日 時：2月17日(金)18:00～

会 場：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、千葉、富塚、高橋、草野、横山、佐藤、鳥山、計8名

千石支部長より「1年間を総括する年度末に入ったが、来る総会は4年ぶりに対面で開催します。支部友、準会員を含め多くの会員に出席してもらいたい」と挨拶があった。

《報告事項》

イ) 総務・財務委員会からの報告(富塚)

①令和5年度支部事業計画・支部予算(本部提出)について

今回から本部に提出する文書の様式が変わり、それに則って記載した。事業計画の中で公益事業の「山の天気ライブ授業」は、山形支部と共催で6月17日(土)・18日(日)に蔵王で予定し、具体的な中身はこれから詰める。また令和5年度の宮城支部予算は138,000円で申請する。

尚、令和5年度総会は4月29日(土)、千

石支部長宅で開くことにした。

②山の天気ライブ授業について

山形支部との交流事業として実施(担当:宮城支部)、両支部が集まりやすい蔵王を予定。初日は座学、2日目は蔵王で実地研修とし、一般にもオープンに呼び掛ける。

③全国支部懇談会の開催について

4年ぶりとなるが、支部創立10周年を迎えた群馬支部が担当。9月23日(土)・24日(日)の両日、水上温泉・谷川岳周辺で開催。

④第12回登山教室指導者養成講習会

長野県小諸で、黒斑山を登りながら技術講習をメインとする案内が来ている。

⑤第36回東北・北海道地区集会&青森支部創立30周年記念式典について

前回(第35回)は宮城支部で担当、その後コロナ禍で自粛していたが、今回青森支部創立30周年を記念して4年ぶりに開催される。7月1日(土)・2日(日)、八戸プラザホテルで記念式典と記念講演、日曜日に(A)階上岳の山行と(B)蕪島・種差海岸散策の2班。参加締切りは4月30日。

ロ) 山行集会委員会からの報告

①厳冬期山行実施結果について(佐藤)

低山で実施したが、参加者の高齢化もあり難儀した。また装備でのハプニングもあった(この後の「山行報告」参照)。

②早春山行(3月)実施計画について(千石)

現在、遠藤会員と相談し計画中。

ハ) 会報・編集出版委員会からの報告(鳥山)

①「宮城山岳通信」第28号

2月定例役員会報告で締めて編集、3月の年度内発行とする。

②「宮城山岳」第27号

・紀行・随筆の執筆協力を依頼。新入会員紹介は、川脇、白井、八尾の3氏に依頼。

・風力発電に関する宮城支部の見解は、H

Pに載せる原稿を掲載する。

・三宅会員が自費出版した「オボコンベ」と富塚会員の八十八ヶ所巡り自費出版2冊の紹介を載せる。

二) 山岳古道調査特別委員会報告 (富塚)

①第4回山岳古道調査特別委員会開催結果

2月2日に開催された第4回委員会で、各担当チーフからの進捗状況報告をまとめた(詳しくはこの後の「第4回委員会」参照)。

②山岳古道調査原稿作成の手引き Vol.2について:今回、Vol.2が本部から送られてきたが、サブルートについて追加されたもの。

《その他》

千石支部長:来年度の春山山行で七薬師駆けを検討、時期は旧暦の4月8日となる5月27日。ロングコースにチャレンジしたい。

(「審議事項」の議題は特になかった)

【第3回山岳古道調査特別委員会】

日 時:令和4年11月3日(木)18:00~

場 所:仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者:千石支部長、富塚、高橋、佐藤、遠藤、細川、加藤、鳥山、計8名

千石支部長より挨拶の後、早速打合せに入った。

《打合せ事項》

(1) 本部古道PJからの最新資料の説明

・これからの原稿作成及び掲載写真や地形図(2万5千分の1の地図)を作成する上での記入、書き方などに対する説明。

・本部へ提出するのは、テンプレート、地形図、写真、GPS軌跡の4つ。

(2) 各古道の進捗状況:各チーフから説明

①栗駒古道(加藤委員)

7月23、24日にかけて現地調査を実施。新湯温泉くりこま荘のオーナーで郷土史家である菅原次男氏から貴重な話を聞いた。GPS

軌跡を除き、ほぼ提出資料は揃った。

②出羽仙台街道(富塚委員長)

大深沢の橋が大雨で崩壊したため調査は止まっている。ルート図を作成しなければならず、来年の雪解けを待って調査する。鬼首公民館の館長で郷土史家の中山氏から情報収集し、来年に古道を案内してもらう。

③関山街道(遠藤委員)

「関山街道フォーラム」の資料を使ってもらって構わないと了解を得る。写真は資料に沿って撮影する。あとはGPS軌跡(千石支部長にあるデータ)を添付すれば出来上がる。一度、富塚委員長が「関山街道フォーラム」の平川会長と会うことにする。

④二口街道(千石委員)

6月26日に野尻番所跡から白糸の滝を經由、林道上部の展望台まで歩き、軌跡を記録した。資料収集も進んで、「関山街道フォーラム」の方々にも協力をいただき、また山形支部からも資料の提供があった。秋保ビジターセンターから清水峠まで軌跡はとれたが、そこから先はこれから。今年は軌跡と写真を集め、その後、提出資料の整理に入る。

⑤蔵王古道(佐藤委員)

8月27日、「蔵王古道の会」主催の第9回目となる“蔵王御山詣り”に参加した。古道の会が20年にわたって、こつこつと調査してきた資料がある。GPS軌跡をとったので、この古道の会の資料を参照して作成すれば、本部提出分にメドがつく。

(3) 今後の進め方

・写真のキャプションをどこに入れるか本部に確認する。

・古道の名称は、別称があれば記載する。

・今後の努力目標として、出羽仙台街道を除き、来年内中にテンプレートをまとめ、来年度中には本部へ送る4つを完成させる。

(4) GPSに関する講習

GPSによる軌跡は、出羽仙台街道を除き、千石支部長がとっている。GPSの軌跡が無い古道調査の担当者は、千石支部長からデータを送ってもらう。

(5) その他

4回目の特別委員会は2月末頃に開催予定。

【第4回山岳古道調査特別委員会】

日時：令和5年2月2日（木）18：00～

場所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、冨塚、千葉、柴崎、高橋、遠藤、加藤、鳥山、計8名

千石支部長より「山岳古道調査は今年中にまとめなければなりません。忌憚のないご意見をいただきたい」と挨拶の後、会議に入る。

《打合せ事項》

(1) 各古道の進捗状況及び今後の予定報告

①栗駒古道（加藤委員）

テンプレートはほぼ出来上がっているが未完成の部分は、これから確認して記入する。ルート写真は悪天候などで撮れなかった→千石、冨塚両氏が撮っているので写真を送る。

②出羽仙台街道（冨塚委員長）

昨年大雨で、まだ調査ができず今年に持ち越している。4月下旬頃に開通の見込みなので、5月上旬から2日位かけて調査したい。テンプレートは文献など調べてタタキ台をつかった。今後の調査で修正を加えていく。

③関山街道（遠藤委員）

調査は「関山街道フォーラム」の資料で充分だが、テンプレートにすると削除する箇所が多く手間取っている。ルート写真は、同フォーラムのパンフレットの一部を流用する→ルート図は地図に手書きで良い。またGPSは千石氏がデータを持っている。

④二口街道（千石委員）

全体として現地調査は宮城側が終わり、山形側は今年調査する。原稿作成のためのテンプレートは「古道を歩く」「古道を知る」をまとめた。「行程表」「参考文献」等はこれからまとめる。テンプレートはタタキ台のタタキ台といったところ。

⑤蔵王古道（佐藤委員欠席で冨塚委員長）

「蔵王古道の会」の浦川氏がテンプレートをまとめた。まだそれぞれの項目のボリュームが不足、今後は資料を調べて文字数を増やしていかなければならない。調査は刈田岳から熊ノ岳までを加えれば終る。

(2) 全体スケジュール

・今後「出羽仙台街道」と「二口街道（山形側）」を早い段階で調査し、テンプレートの作成に入る。

・GPSに関する地図とルート図ができない方は、千石氏からデータを送る。栗駒も関山もある→柴崎氏より、ルート図はスタート、ゴールだけでなく、その周りの山、歴史に係のある山などを入れるべき。

・支部で最も作業が進んでいる「栗駒古道」を本部に送り一度チェックしてもらう。

・古道調査を今年中に完成させ、最終的な検討会を開いたあと、役員会の承認を経て本部に送りたい。

【宮城支部山行報告】

(公益事業) 第11回親子登山教室

報告者 千石 信夫

実施日 令和4年10月16日（日）

山 域 深山 (287m) / 亶理郡山元町

コース 登山口～深山神社～一服坂～駒返し～お太鼓峠～深山 (駒返しコース往復)

参加者 会員=千石信夫、冨塚和衛、冨塚眞
味子、草野洋一、鳥田笑美、支部友=鳥田

伊志、計6名

公募参加者＝小野木家父子2名、根本家父子2名、東野家両親2名子供2名、計8名
お手伝いで千石会員夫人、合計15名

春に続き亙理郡山元町にある深山（287m）にて、10月16日（日）秋季の親子登山を開催した。

仙台在住の3家族、親4名、子供4名の参加があり、秋らしい天候の中、快適な登山を楽しんだ。支部会員の参加者は、支部友会員を含め6名の参加者となった。

「深山山麓少年の森」駐車場に午前8時に集合し、開催にあたって支部長から参加者への挨拶、及び宮城支部会員の紹介を行い、そして参加者それぞれに自己紹介をしてもらった。



▲深山神社にて安全祈願

一日の予定やコースの説明、注意点などを話し準備体操後、登山を開始した。登山口にある深山神社にて安全登山を祈願し出発。春の親子登山の反省から行程を短く変更して、駒返しコースを往復とした。

子供たちは春に比べて人数も多くなり、初対面でもお互い交流しながら、楽しく最後まで元気に歩き通した。ゲーム好きな子、昆虫に興味がある子など様々だが、自然に親しんだことは、子供たちにとって意義のある体験



▲中腹にて休憩、太平洋が望めた

になったのではないかと感じる事ができた。

山頂からの眺望は、太平洋方面、角田市方面などは眺められたが、蔵王連峰などの遠方の山々は残念ながら見る事ができなかった。家族ごとの記念写真を撮り、そしてまた子供たちがシャボン玉を飛ばして楽しむなど、それぞれの親子の山歩きを体験した。下山時には足どりも軽く無事、麓の駐車場に到着した。その後、昼食の会場に移動。

宮城支部女性委員会が、宮城風の芋煮汁（みそ味、豚肉、里芋、キノコ、野菜など）を美味しく調理してくれた。特に新鮮な里芋なので、大鍋で作った汁がほとんど残らず、どんぶり3杯も召し上がった方もおられたようだ。食後、春の企画と同じように登山用具を説明し、ロープの結び方などを勉強した。また事前に設営したテント3張の中に入って、テントの居住空間を親子で体験してもらった。



▲テントで楽しんでいる親子

最後に、支部長より一生懸命歩いたことを

称え、深山登頂証明書を子供たち4名に授与した。参加された親子からは、このような企画なら来年も参加したいとの声が多かった。5月の連休ぐらいに企画すれば箭の時期にも重なるので、さらに楽しく出来そうな手ごたえを感じる親子登山となった。

(公益事業) 第10回登山教室

報告者 富塚和衛

実施日 令和4年11月13日(日)

山 域 北泉ヶ岳(1253m)～泉ヶ岳(1172m)

コース オーエンス泉ヶ岳自然ふれあい館駐

車場～水神～三叉路～北泉ヶ岳～三叉路～

泉ヶ岳～滑降コース～お別れ峠～駐車場

参加者 会員＝富塚和衛、富塚真味子、草野

洋一、佐藤昭次郎、細川光一、遠藤幸寿

支部友＝鳥田伊志 計7名

公募参加者＝岩渕利秋、山道聡、川村裕信、

八尾寛、白井浩、武田昭子、千葉美江子、

伊藤竜介、北田みちこ、計9名合計16名

午後から天気が大崩れする予報の中、第10回を数える登山教室を、仙台市民にも親しまれ、また仙台市の名誉市民でもある日本アルピニズムの草分け・楨有恒が愛した北泉ヶ岳・泉ヶ岳をフィールドに実施した。

集合場所のオーエンス泉ヶ岳自然ふれあい館前の駐車場に、参加者16名が8時前に全員集合。グループを一般参加者3名、支部会員等2名編成の3班に分ける。リーダーからコースを簡単に説明した後、まずは水神を目指して出発する。時刻は8時20分。落ち葉を踏みしめながら緩やかな登山道を30分程歩き、一休みし呼吸を整える。周囲の木々は、すっかり葉を落とし冬仕度ようだ。

一息ついたところで水神碑を目指す。この碑は泉ヶ岳の山名の由来とも言われており、



▲水神碑前で

樋沢川源頭部の近くにある。ここで2回目の休憩を取る。時刻は9時10分。休憩の時間を利用して「登山教室」を開く。

9時20分に水神碑を出発。樋沢川の源頭部を右岸に渡り、北泉ヶ岳への登山道に取り付く。ブナの原生林に覆われた急坂をユックリと参加者の足並みを見つつ三叉路に向かう。水神碑から50分ほどの行程。ここで大休憩。

風が強くなってきたこともあり、ここで昼食を摂ることにした。数名がザックをデポしたいという事だったので、その留守居を細川会員が引き受けてくれたのでお願いし、準備を整えて北泉ヶ岳の山頂を目指す。ブナ林の中を一旦下り泥濘を過ぎてからは、北泉ヶ岳山頂へ張り出す根っこに気を付けながら、右手に泉ヶ岳を見つつ登り詰めていくと北泉ヶ岳の山頂に到着した。時刻は11時過ぎ。



▲北泉ヶ岳山頂にて

北泉ヶ岳からは三峰山(1418m)、蛇ヶ岳(1400m)、そして船形連峰の盟主・船形山

(1500m) へと稜線伝いに登山道が続く。北泉ヶ岳の山頂は視界が利かない。風も吹き荒んできたので写真を撮り、早々に来た道を30分程かけて三叉路に引き返す。笑顔の細川会員が「ご苦労さん」と迎えてくれた。

落ち葉で敷き締められた三叉路で昼食タイム。思い思いの手作り弁当に舌鼓する。食事時間を利用して2回目の「登山教室」を開く。内容は日本山岳会と宮城支部についてのあらまし。

12時10分、泉ヶ岳山頂を目指して三叉路を出発。緩やかに北泉ヶ岳と泉ヶ岳の鞍部まで下り、泉ヶ岳の頂へと登り返す。頂に近くにつれて視界が開けてくる。振り返れば登ったばかりの北泉ヶ岳の姿が、また南西には宮城を代表する山々が一望のもとだ。ここで佐藤昭次郎会員から宮城の山々を説明してもらおう。



▲北泉ヶ岳をバックに泉ヶ岳

暫し、宮城を代表する山並みを堪能してから泉ヶ岳の頂へと足を運ぶ。13時に山頂到着。何時もは登山者で賑わう山頂は、天気予報が影響したのか登山者の姿は少なかった。

山頂に転がる石に腰を下ろして休んでいると、天気予報が当たったようで雲行きが怪しくなってきたので下山を始める。下山路は滑降コースに取る。

泉ヶ岳山頂から水神コースを右に、表コースを左に分け、南の方向に位置する滑降コー



▲泉ヶ岳山頂

スは、仙台市内小学校5年生の泉ヶ岳登山で登ってくる登山道だ。カモシカ・コースを左に分けると急な下りになる。登山道は根っこが張り出し、石や岩が重なり合って歩き難く危険も伴う。一般参加者の中には登山経験が乏しい方も居られたので、声を掛けながら時間をかけて急場を凌ぐ。「大壁」を過ぎ、見返り平まで下れば、もう心配ない。お別れ峠を通過し泉ヶ岳ふれあい館に着いたのは14時40分。全員無事の下山となった。

下山後、一般参加者から今回の登山教室の感想をお聞きしたところ、多くの方々から高評価をいただいた。特に班を編成しての山行は、会員等から山の話の聞けたし、またいろいろと質問も出来たので大変良かったとの声もあった。

■11月27日(日)に予定した「初冬山行(小東岳)」は、参加申し込みが無く中止した。

厳冬期山行

報告者 佐藤昭次郎

実施日 令和5年2月5日(日)

山城 太白区秋保町馬場 鷹ノ巣山(704.8m)

コース 秋保大滝駐車場～車道～登山口～尾根～山頂・昼食～東尾根～枝尾根～駐車場

参加者 佐藤昭次郎、千石信夫、千葉正道、細川光一、草野洋一、遠藤幸壽、計6名

昨年末に日本海側で豪雪での立ち往生などの話題がありました、ここ県内では例年より少なめかなと思われる積雪量。

集合場所の駐車場はきれいに除雪され、風も無く予報では終日曇り、この時期としては暖かい。曇りとは言え、目の前の低山や山頂部まで望める登山日和と言える。

参加予定のメンバーが靴を忘れ戻った、との事。連絡を取り合い、時間を多少ズラして出発することを伝えて8時30分、車道を歩きだす。9時00分、登山道入り口。ここでカンジキを装着して準備中、戻ったメンバーが合流。9時10分、尾根上の568m点を目指して雪面を歩きだす。以前はスギの植林で眺望はゼロであったが伐採され、三方倉山、磐司岩、大東岳、野尻集落が箱庭のように一望できる場所となった。



▲カンジキを履いて斜面を登る

雪の量は少なめ、途中の急斜面にカンジキも流れだし、踏ん張るのに一苦労。先頭を交代しながら10時55分、尾根に出た。地図上の568m点より150mほど東にそれた場所に到達。この頃になると頭上には青空も現われ、本砂金川の対岸に桐ノ目山、三森山、その背後に泣面山が見える。

10分ほど小休憩の後、山頂に向けて出発。11時30分、鷹ノ巣山の山頂着。昔は手作りの標識などあったが、朽ち果てたのか見当た



▲尾根をめざし樹林帯の中を登っていく

らず、今は積雪の状態や雰囲気などから判断し、周りを見ると標識を固定した紐類があるだけ。ここでゆっくりと昼食しながら互いの“老”を励まして楽しんだ。傑作の話題は医師である会員が足を“つって”、千石さんが薬を処方したとの事。

12時10分、下山のため東に延びる尾根を辿る。右手には三森山、桐ノ目山の間にオボコンベが見えるが、場所が悪く不遇な山である。でも、この山を持ち上げてくれる会員がいる幸せな山にも思える。

山頂から50mも高度を下げた肩のところから北方の枝尾根へ、小さな雪庇に注意しながら下る。もう駐車場が見える。途中、“えっ！ここだけ雪が無い！”。広さ10畳くらいの石積み斜面が風穴の場所である。石の隙間から微かに暖かい風が吹き上がっているのが判る。



▲暖かい風を吹きあげる風穴の場所

夏は涼しいのだろうと思いながら最後のイノシシ対策の金網を越え、13時45分駐車場

に無事下山。先に降りていた細川会員の熱い紅茶を頂き、14時00分現地にて散会とした。

定例事業

12月10日(土)に開催する予定だった宮城支部晩餐会は、オミクロン株によるコロナ感染者数が増加にあることと、参加申し込みが少数であったことから中止とした。

令和5年度 宮城支部総会 開催、是非ご出席ください

新型コロナウイルス感染症の拡大により、書面及びメールによる総会が続きました。ようやくコロナの兆しが落ち着き、令和5年度総会を4年振りに対面で開催する運びとなりました。会員、準会員、支部友の皆さま、万障お繰り合わせの上、ご出席いただきますよう御案内申し上げます。

開催日時：令和5年4月29日(土)

会場：千石信夫支部長 自宅
宮城県亘理郡山元町鷲足字中17番地

詳しくは、近々に発送します総会開催の案内状をご覧ください。

宮城支部事務局

【今後の行事予定】

☆3月16日(木)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆3月26日(日) 早春山行

☆4月29日(土) 宮城支部総会

於：千石信夫支部長宅(亘理郡山元町)

☆5月17日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆6月15日(木)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

【「宮城山岳」第27号の原稿募集】

今年も機関誌『宮城山岳』を発行しなければならない時期となりました。この機関誌には、会員皆様の投稿による「紀行・随筆およびエッセー」のコーナーがあります。これまでの登山の思い出や山でのエピソードなど、山にまつわる内容であればテーマは問いません。5月もしくは6月に発行予定の『宮城山岳』第27号に掲載させていただきます。

会員皆様からの投稿をお待ち申し上げます。

○原稿文字数 1000～3000字(横書き)

○原稿締め切り 令和5年4月16日(日)

○原稿送り先 鳥山のメールアドレスまで

yrdbf275@yahoo.co.jp

原稿に関連する写真も同メールアドレスまで送っていただければ幸いです。

〈連絡先〉256-1459

090(2608)5195

会報・編集出版委員 鳥山文蔵

【編集後記】

昨年、現役を引退した楽天イーグルスの福山博之投手が、12年間のプロ野球人生を振り返り、「山あり谷あり、いろんな景色が見られた」と挨拶した。野球とはフィールドが違うが、どこか山登りと共鳴するような言葉として心に残った。

そう言えば、投手が立つ“マウンド mound”(土を積み上げた山)は、“マウント mount”(登る)と響きが似ているように聞こえる。まもなく球春と春山の季節がやってくる。

会報・編集出版委員長 鳥山文蔵

宮城山岳通信 第28号

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2023年3月7日

発行人 千石信夫

会報・編集出版委員会 鳥山文蔵、千石信夫、冨塚和衛、細川光一、三宅 泰

事務局 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中9-12 (冨塚宅)

連絡先：TEL 090-2790-3771